

## 施設整備の方向性について

新センターに求められる役割・機能を踏まえ、施設整備の方向性を下記の通り整理しました。

### 1) 障害者の療養環境の充実を目指した施設整備

- ・ 明るく開かれた清潔感のある医療・福祉環境の創出
- ・ バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した施設整備
- ・ 利用者のプライバシーの確保や、障害特性に配慮した居住環境の提供
- ・ 感染症防止対策や重症者の管理およびプライバシーやアメニティに配慮した個室確保
- ・ 5人部屋、6人部屋の病室（居室）から2人又は4人部屋を主体とした施設整備
- ・ 身体障害者が様々な医療を受けることができるよう配慮した外来機能（診療科）
- ・ 利用者にとって分かりやすい動線に配慮した施設配置
- ・ 十分な駐車場台数の確保と雨天時に配慮した施設整備
- ・ 各種利便施設やフリースペース等の憩いの場の設置

### 2) 中長期的な需要と供給を踏まえた施設整備

- ・ 将来需要や職員配置等の視点を踏まえた適正病床数（定員数）による各種サービスの提供
- ・ 将来の需要変化に対応可能な可変性のある施設整備

### 3) 就労支援機能（更生園、高次脳機能障害支援センター）

- ・ 更生園および高次脳機能障害支援センターの就労支援機能の一元化による就労支援部門の設置
- ・ 更生園における障害対応範囲の拡充（頸髄損傷等）に向けた施設整備

### 4) 相談機能（総合相談部、児童発達支援センター、高次脳機能障害支援センター、地域リハ推進部）

- ・ 各施設の相談機能の一元化・集約化（ワンストップサービス）による患者・利用者の利便性向上

## 5) 補装具製作施設

- ・新センター機能に応じた補装具製作等に対応可能な施設整備

## 6) 手術室機能

- ・整形外科（脳性麻痺や関節疾患等）、泌尿器科、歯科等の手術に係る手術室の設置

## 7) 新たな機能提供に対応した施設整備

- ・研究や開発、情報集約・発信の充実のためのテクノエイドセンターの整備
- ・障害者の生きがいや社会参加、生活の質の向上を目的とした障害者スポーツへの取り組みや地域の障害者も利用できる体育館（講堂等）の整備
- ・内外の各種研修充実のための、十分な面積と最新機能を備えた研修室や講堂の整備
- ・障害者の健康増進のための人間ドックや障害者検診への対応

## 8) 災害時の避難所として機能する施設整備

- ・一時的な障害者の受け入れ・診療スペースの確保
- ・可能な限り低層階構成とした居住棟の整備（水平方向に避難可能な施設構造）
- ・災害時においても医療および福祉サービスが提供可能な施設整備
- ・医療用アウトレット(酸素や吸引配管等)の整備

## 9) 職員が働きやすい施設整備

- ・十分な執務スペース、会議室、収納スペース、更衣室、休憩室、仮眠室等の確保による職場環境の整備
- ・多職種による職員交流が促進されるような施設整備
- ・電気錠の設置、時間外稼働エリアの集約化、IDカードによる入退室管理等のセキュリティ
- ・職員の動きがスムーズとなるような動線に十分考慮した施設配置

## 10) 経済性に配慮した施設整備

- ・合理的な建替え計画による低コスト・短工期での工事完成
- ・イニシャルコストとランニングコストのバランスのとれた経済設計